

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 地殻大型地震の可能性前兆 現況報告

7月30日夕刻 前兆継続の4モニター中3モニター一旦静穏化 かし 再び出現

2008年7月から丸7年継続する最長記録の前兆で、過去例に無い複数極大と7段階ステージに及ぶ特殊な形態の前兆は本年春以降、幾つもの小型前兆が出現し、最終段階認識をしております。

幾つもの前兆群の変動形態から、8月1日±2時期の可能性が示唆されており、前兆の推移変化を見ております。

FAXとE-mailで日々配信しております実験観測情報では、昨日7/30夕刻に継続していた変動出現モニター4台のうち3台の変動が静穏化したことを報告致しました。右波形参照。

午後4時半頃、CH4、CH7の直接波近似変動が終息。続いて午後5時頃、継続出現していたCH16の特異状態が静穏化しました。

このまま静穏化し、残るCH21の特異のみが終息すれば7年間続いた前兆が全て終息することになるため、注目されましたが、静穏化した3モニターの変動は数時間後、再び変動が現れだし、本日07月31日夕刻現在、まだ継続出現中です。

現在の変動変化認識が仮に正しい場合で、直前特異が出現している場合は、地震発生まで前兆が消えず、静穏化せずに地震発生となります。発生時期は誤差を考慮しても8月3日迄となります。この可能性は否定はできず、この変動変化の認識では、より先となる根拠前兆は認められません。

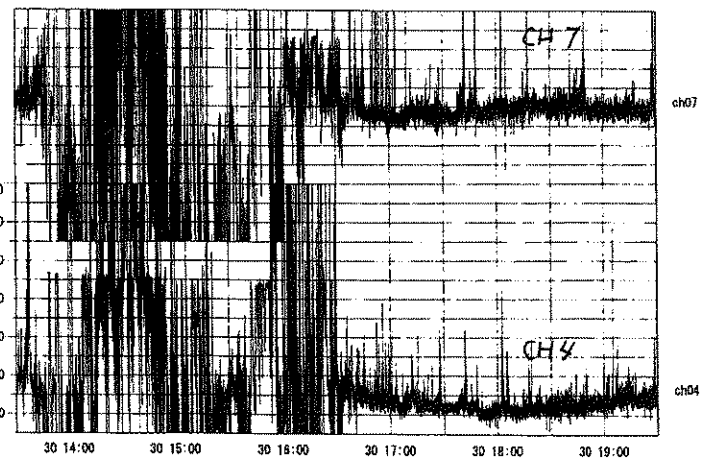
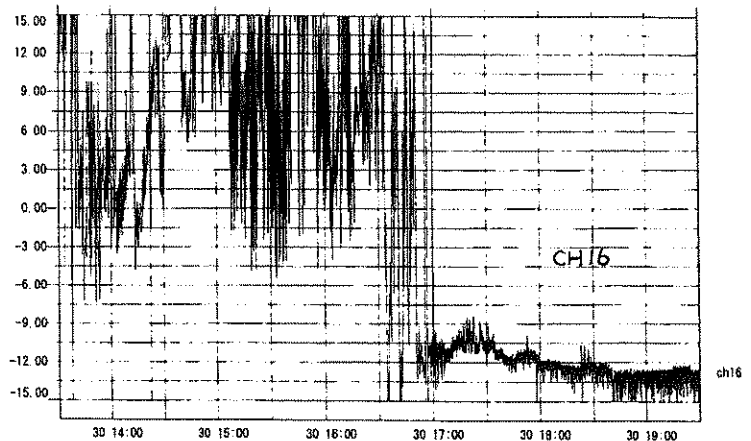
また一方で、現在の変動変化認識が間違っている場合、各前兆終息認識がズれている場合等では、推定発生時期事態がより先となり、前兆がまだ継続していてもおかしく無いこととなります。

現在までの前兆変化認識が正しいか否か、最終段階認識で直接波近似変動が出現した過去例も無く、今回の様な前兆形態事態も初めて体験する形であることから、判断は難しい状況です。

2008年6月以降は、前兆期間が数日～数ヶ月の地震ではほぼ全て正確に推定ができましたが、当該前兆群は過去例が無く、初めて体験する前兆形態であることから、解析が難しい状況ご理解下さい。

推定内容の領域、規模等は以前からほぼ変わっておらず、発生時期のみが、前兆変化で読めない状況でした。昨年までは、段階的な変化で、前兆が継続し続けたため、ある時期が推定されても、その時期前に前兆出現モニター数が増え、極大が観測されるなどして、推定された時期が発生時期では無いことを報告して参りました。別に発生時期を先延ばしてきた訳ではありません。その時期が地震発生時期では無い認識となり、その後の前兆変化を追ってきた次第です。

但し、今回の第7ステージでは、小型の別形態前兆群が複数出現し、その全てが8月1日±(誤差は正確には±3日)を示していました。(但し、変動変化認識が間違っていれば、十日程度後日となります)



現在までの変動変化認識が正しく、8月3日までに発生となるか、3日段階で発生もなく、前兆が単に継続していた場合は現在の変動変化認識が間違っていたこととなりますので、解析しなおします。

8月1日±に新たな前兆が出現したり、極大が観測された場合は、第8ステージの出現となりますが、これは少々考えにくいと思われます。但し、初めて体験する特殊ケースですので、確実なことは言い切れません。

8月3日までに発生があるかないか、前兆がどの様に変化するか、実際を見て、再考したいと考えます。

20年間で初めて体験する特殊ケースでありますため、難しいことを重ねて申し上げます。

※本続報はFAX・E-mail 版実験観測情報No.2669を使用させて戴きました。ご了承下さい。